



井田淳一

7月28日(土)～9月2日(日)

夏の企画展 井田淳一と生徒たち

美術博物館では、県立高等学校の美術教師を務める傍ら生涯学習にも情熱を注ぎ、多くの後進を育てた画家井田淳一に光を当てた企画展を開催します。高校時代に井田淳一の指導を受けた28人の精鋭の生徒たちの作品も一堂に展示します。

会期 7月28日(土)～9月2日(日)、
午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分)

費用 一般300円/65歳以上200円/
大学・高校生100円/中学生以下無料

開会式 7月28日(土)、午後1時30分

※うどんの会の皆さんによるうどんの無料サービスとカントリーミュージックの演奏があります。

ギャラリートーク 第1回：7月29日(日)、午後2時
第2回：8月19日(日)、午後2時

「広報紙アンケート」の応募者に抽選で本企画展の招待券をプレゼント。詳しくは、最終ページをご覧ください。



《時に追われしもの》1987年

同時開催 (市民ギャラリー)

●「第81回 いっぱの会
そして仲間たち」
会期 7月28日(土)～8月12日(日)

●「多胡忠文 小河原国男と
その仲間たち」
会期 8月18日(土)～9月9日(日)

7月15日(日)

美術博物館×県立女子大学 夏休みわくわく ワークショップ2018

今年で5回目となる県立女子大学の学生によるワークショップを開催します。学生が考えた夏にちなんだ四つのプログラムを用意してお待ちしています。一緒に夏休みの思い出作りをしませんか。

- 内容 身近な物を使って工作や造形を楽しまします。
- ▽「オリジナルアクリルドームをつくらう！」
- ▽「君だけのお面で作身！」
- ▽「カラフルな海のかまをつくらう！」
- ▽「自分だけのふうりんをつくらう！」
- 日時 7月15日(日)
- ①午前10時～正午
- ②午後1時～3時
- 所要時間 20分～30分
- プログラムによって異なります。
- 対象者 幼児・小学生
- ※保護者の同伴をお願いします。
- 費用 無料
- その他 汚れてもよい服装でお越しください。
- 申し込み 不要(直接会場へお越しください)



参加者募集

8月3日(金)・4日(土)

福フラッグをつくらう

秋の企画展「福沢一郎生誕120周年 富岡まるごとフクザワ」の関連事業として、ワークショップを開催します。福沢作品の鑑賞会を行った後、展覧会の開催中、まるごと感を演出するために館内に飾るフラッグを作ります。

日時 8月3日(金)・4日(土)、いずれも午前10時～正午

対象者 小学生(ただし、2年生以下は保護者の同伴をお願いします)

費用 無料

定員 各13人(先着順)

その他 ▽フラッグは館内に掲示するため、持ち帰ることはできません。

▽汚れてもよい服装でお越しください。

申し込み 7月4日(水)、午前9時30分から電話で美術博物館へ。

臨時休館
7月23日(月)～27日(金)は、展示替えのため休館となります。

会場・問い合わせ
美術博物館
(黒川 351-1)
☎ 62-6200

市民の文芸 川柳選者の紹介



荻原亜杏さん

今月号から、川柳の部の選者を荻原亜杏さん(高崎市)にお願いすることになりました。荻原さんは、高校1年生のとき、父である川柳作家の荻原柳絮さんに勧められて川柳に入会。50歳を過ぎてから、柳絮さんに付き添い東京の句会などへ参加し、現在は、竹柳会会長を務めています。平成15年に「上毛川柳年間賞優秀賞」を受賞。著書に「上毛川柳入選句集」「川柳句集(杏)」、近著に「川柳作家ベストコレクション 荻原亜杏」があります。「川柳は、生活を詠む文芸だと思えます。五七五に基づき感じたことを率直に表現し、段々に言葉を選んでいってくださ」と語ってくれました。

作品を募集しています
応募する部門名・住所・氏名・電話番号を記入し、はがき・封書・Eメール・ファクスで、秘書課市民の文芸係へ。
※毎月1日締め切り(必着)
※応募・問い合わせ先は下段に記載

市民の文芸

俳句

- 更衣若さ引き寄す靴は紅
(下黒岩) 吉田シズ江
- 新庁舎祝ぐやう競ふ鯉のぼり
(下黒岩) 野口ちる子
- 休むとき尾の力抜く鯉織
(富岡) 小池はるみ
- 満水湖ひらりと返る夏燕
(富岡) 黒澤 克美
- 軒下に燕の飛来福を呼ぶ
(黒川) 佐藤 幸三
- ランドセルに小さき鈴音花なづな
(野上) 福田 恵子
- 濁流と木々の青さの臆月かな
(岡本) 柳澤 則子
- 梅雨の前ほどよき雨のほめらるる
(上小林) 岩井 進
- 空の青透ける真白き花うつき
(中高瀬) 佐藤 強
- 咲き誇る狭庭の王者紅牡丹
(上黒岩) 本多八千代

短歌

- 除草剤まけば簡単と言うけれど去年の小草に会うも楽しみ
(七日市) 大滝 松代
- 「御飯よ」と曾孫笑顔で呼びに来る家族で食すにぎやかな膳
(七日市) 宮 和子
- 田植機のエンジン音も軽やかに谷津田の田植そつなく進む
(下高尾) 金田 照治
- 上梓せる歌集を友は送りこし波乱の生きざまそのままに見
(一ノ宮) 赤石 静江
- 母の日に贈りしバラの鉢植は母亡き今も鮮やかに咲く
(富岡) 湯浅サチ子
- 五パーセントの塩をもみこみ焼酎を吹きて儼防ぎたる我が
(七日市) 恩略 森造
- 家の梅漬け
(南蛇井) 横田 久子
- 車窓より触るるばかりに咲き盛る山法師愛でて妙義路を行
(後 賀) 黒田 修司
- 「その昔この橋脇に水車あり」と伝えし人の消息も知らず
(七日市) 新井 逸子
- 生後みつぎ曾孫は体重倍となりとろりまどろむ吾が腕の中
(七日市) 新井 逸子
- 亡き義母の植えし芍薬みごとに咲けり一本切れて佛前に供
(一ノ宮) 高橋よし子

漢詩

- 花時出遊 (宇田) 横田 治
- 東風拂面醉韶華
微看橋頭有水車
士女遊行晴一日
百花繚亂可詩家
- 閑適 (富岡) 黒澤 壮子
- 夢醒啼鳥竹窓前
不識曉晴貪情眼
衰暮悠悠無一事
臥看稻嶽翠微巔
- 山寺訪友(連環体)
長駕清遊塵念忘
忘難山郭白雲鄉
郷心相抱招提境
境内一條香氣長

詩

- 花時出遊 (宇田) 横田 治
- 東風 面を吹いて韶華に酔う
微かに見る 橋頭 水車有るを
士女 遊行す晴一日
百花 繚乱 詩家に可なり
- 閑適 (富岡) 黒澤 壮子
- 夢醒むれば啼鳥 竹窓の前
暁晴を識らずして情眼を貪る
衰暮 悠々 一事無し
臥して見る稲嶽 翠微の巔
- 山寺に友を訪う(野上) 今井 絹江
- 長駕の清遊 塵念を忘る
難を忘れて山郭 白雲の郷
郷心 相抱いて招提の境
境内 一条 香氣長し
- 川柳 荻原 亜杏 選
- 衝突をしてもスマホをはなさない
ダイサービス元先生が句の友に
脳細胞ひと騒ぎして思い出す
通学路見守り隊にこうべたれ
梅雨晴れ間洗濯物が伸びをする
梅雨晴れにあるじなくした忘れ傘
歳暮葱植えて今年も送れるぞ
坪庭は鉢植ナスで活気付き
意志あつて朝顔左に巻き直り
イチローの後継ぎ大谷大見出し
- (相野田) 小柴真知子
(富岡) 大河原富美
(岡本) 轟 陽子
(七日市) 浅川 幾雄
(黒川) 原田利恵子
(富岡) 湯浅サチ子
(南蛇井) 丸山 昭夫
(富岡) 新藤とし子
(富岡) 田島八千代
(上小林) 岩井 進